

六甲カトリック教会 教会報

2024

1



No. 625

三博士の贈り物

主任司祭 英 隆一朗, s. j.

＋クリスマスと新年おめでとうございます

イエスが誕生した際、マタイ福音書では、東方の三博士が訪問してきました。遠方からキャラバンを組んで、何週間もかけて旅行してきたのは本当にすごいですね。貧しい馬小屋で、飼い葉桶に寝かされている幼子に、黄金・乳香・没薬をプレゼントしたのも驚きます。マリアもヨセフも今まで見たこともない財宝を手に入れたのですから。世俗的に想像するに、宝くじに当たったような気分だったでしょう。でも、遊興費に使われたわけではありません。すぐあと、幼子を連れて、マリアとヨセフは難民として、密かにエジプトに逃亡せねばなりませんでした。財宝は突然必要になった旅費であり、エジプトで隠れ住むため当座の住居費や食費などに必要不可欠でした。どのような贈り物も全く無駄にならず、神の計画の中で意味があることに驚かされます。このようなエピソードを通して、六甲教会の献金の仕方をより有意義な形にしていきたいです。

従来の「維持献金」については、今までどおりの形でお願いします。成人（23歳以上）になりながら、ご両親への請求しかしていなかった信徒の方々にも、順次、献金封筒を独立させてお願いすることにします。自らの経済状況に合わせてご協力ください。

また、「一粒会」の献金封筒は他の献金と合わせて、「自由献金」封筒に統合することにします。この教会では数年前から「東ティモール」のイエズス会の学校へ応援してきました。以前は特定の方々だけに募金をお願いしていましたが、昨年度から広く皆さまから献金をお願いしています。さらに、以前から「愛の献金」というものがありました。このお金は世界の中で危機に陥っている場にいつでも緊急に支援するものとして活用していきます（昨年度はシナピスの緊急難民支援に送金）。それらを合わせて、「自由献金」封筒とします。自分の関心のあるところに無理のない範囲で募金してくだされば、それで十分です。

現在は連日、ガザ地区の悲惨な状況が報道されています。ガザのカリタス（カトリックの世界的支援組織）の現地職員10名ほどは無差別爆撃のため、すでに死亡しました。壊滅的状況だからこそ、カリタスジャパンは緊急支援を始めました。このような状況なので、愛の献金からガザ支援のためにまとまったお金を寄付したいと思っています。皆さんの中でも関心のある方は、自由献金④その他の献金欄に、その旨を書いて寄付を入れてもらえば、その分も合わせて送金するつもりです（1月末）。

会計年度を合わせるため、今回の封筒は2024年1月から25年3月までにしてあります。その次は、4月始まりにする予定です。

今年度のバザーの収益金は自然災害支援を中心に配分しました。これからもバザーの収益金は緊急で必要性の高いところに献金する方向で検討するつもりです。

皆さまからいただく貴重な献金が、聖家族を助けた贈り物のように、神さまと人びとに喜ばれるように活かしていきたいです。

新しい年が皆さんにとって、希望となぐさめの年となりますように。

《チャリティーバザー 収益金配分について》

11月12日に行われたチャリティーバザーの収益金について報告します。総計は745,699円でした。皆様のご協力に心から感謝いたします。

今年度（2023年度）は従来からの支援先に加えて、災害支援を謳って実施しましたが、そもそも災害は常に突発的であり、刻々と状況が変わりますので事前に支援先を決定することはできません。したがって、バザー終了後、種々の状況を勘案しながら英主任司祭と当教会評議会議長とで以下の決定をいたしました。ご了承ください。

献金先	金 額
社会活動神戸センター	100,000
釜ヶ崎 こどもの里	100,000
大阪シナピス難民移動移住支援	100,000
船員司牧	50,000
トルコ・シリア災害支援	395,699
総計	745,699

（小教区評議会議長 宗行孝之介）



ドイツ語ミサ ご存知ですか？ Deutsche Messe

最初のドイツ語のカトリック共同体は、約30年前にケルクマン神父によって創立され、イエズス会の男子校、六甲学院のチャペルで、ミサが行われていました。その後、長年続いていたドイツ語ミサがなぜ途絶えてしまったのか、その理由は残念ながら分かりませんが、それだからこそ、2020年10月関西、カトリックドイツ語ミサ共同体が、元大阪神戸ドイツ総領事マルティン・エバートさんによって新しく設立されたことは、非常な喜びとするところです。彼は敬虔なクリスチャンで日本にカトリックをもっと広めようと思っていた頃、ドイツから東京の聖ミカエル教会に派遣されてきたミルコ・クヴィント神父が神戸でもミサを挙げたいと思っていたので、ちょうどいいタイミングでこの創立に至ったわけです。最初は、カトリック住吉教会のご聖堂をお借りしておりましたが、少し前から六甲カトリック教会の小聖堂でミサを行うことになりました。まだ少人数のドイツカトリック共同体にとって、六甲教会の小聖堂はちょうどいい大きさで、この場を提供してくださった六甲教会の神父さまを始め、みなさまに大変感謝しております。

ドイツ語ミサは、毎月最終の日曜日の15時から行われます。ミサのあとは、引き続き共に楽しむティータイムがあります。ご興味のあるかたは、ぜひご参加ください。心よりお待ちしております。

（問い合わせ：井川伸子 nobuko.ikawa03@gmail.com）

御聖堂のお花生け奉仕者募集中！

御聖堂でお花を生けてくださる方を募集しています。

- ・1カ月に一度、2～3名のグループでのご奉仕となります。
お花の注文は金曜日、生けるのは土曜日9時からです。
- ・生けていただく場所は、ご聖堂祭壇前中央、聖堂後部のマリア像、ヨセフ像脇の3か所。お正月、ご復活、無原罪のマリア様、聖母の被昇天、クリスマスなど特別な祭日のお花生けもあります。ご関心のある方は教会事務室まで。

（写真はクリスマスのお花。十字架の横に置かれました。）



《ベルの打鐘プログラムの設定》

ベルは4階構造の鐘塔の最上階に上下2段に2基設置されており、上側に小ベル・下側に大ベル、そしてそれぞれのスイングベルは聖ザビエルと聖ヨセフと命名されています。2023年4月に実施したベルの打鐘システムの改修工事に伴い、打鐘奏法（プログラム）を見直しましたので、改めてその概要を報告します。

打鐘奏法は、英神父様の指導の下に典礼部委員、オルガニスト、事務室、施設管理部委員、設置業者によって、下表の通り設定されました。

打 鐘 名	打 鐘 時 刻	使 用 ベ ル	時間	設定	備 考
① お告げ	毎日正午・18時	外付ハンマー+小ベル	94秒	自動	お告げの祈りへの誘導
② 呼込み	日曜9時50分	小ベル+大ベル	60秒	自動	ミサ開始の通告
③ 復活祭	栄光の賛歌	小ベル+大ベル	120秒	手動	祝祭・神の栄光
④ 結婚式	新郎新婦退堂時	小ベル+大ベル	120秒	手動	祝福
⑤ 葬 儀	ご遺体出棺時	大ベル	120秒	手動	葬送

上記の打鐘は従来から採用されていましたが、今般その使用ベルや打鐘時間を見直しました。特に以前の正午と夕方6時の鐘では、点鐘を打つハンマーが打鐘システムに設置されていなかったために、「お告げの鐘（アンジェラスの鐘）」の形態がなく、鐘の趣旨が不明確な状態で打鐘され続けていました。この度の打鐘システムの改修で点鐘のための外打ちハンマーを設置したことにより、「お告げの祈り」ができる形態が整備され、その祈りは下表の通り設定されました。

打鐘	点鐘3回	・・・	点鐘3回	・・・	点鐘3回	・・・	小ベル打鐘	合計
祈り	お告げ	アヴェ	お告げ	アヴェ	お告げ	アヴェ	お告げ、祈願	
時間	3秒	15秒	3秒	15秒	3秒	15秒	40秒	94秒

大ベルに設置された外打ちハンマーの点鐘3回（カン・カン・カン）の間に「お告げの祈り」、点鐘の後の無音の間に「アヴェ・マリアの祈り」を唱え、点鐘3回・3セットの後の小ベル打鐘（カーン・カーン・カーン・・・）の間に「お告げの祈り」に続き「祈願」を唱える設定です。

絵画「晩鐘」のように鐘とともに「お告げの祈り」を唱える習慣が定着することを願っています。



写真1. 工事前のベル



写真2. 外打ちハンマー
(施設管理部)

「クリスマス音楽の集い」を終えて

クリスマスにはまだ一足早い、去る12月10日に六甲教会主聖堂で「クリスマス音楽の集い」が開催されました。今回はコロナ禍に活動を休止せざるを得なかった聖歌隊が4年ぶりに声を合わせて歌い、オルガンの独奏や連弾、歌にフルート、そして弦楽四重奏という約2時間にもわたる多彩なプログラムでした。当日は200名近くに及ぶ聖堂いっぱいのお客様にお越しいただき、音楽を通して沢山の方々と時間を共有する幸せを改めて実感しました。最後には全員合唱(写真)としてお客様と一緒に「きたれ友よ」を歌い、歌詞の内容にあるように「共に集まって喜ぶ」ことの大切さも心に刻みました。同時に、中村神父様がお話し下さった「必ずしも喜ぶことができる人達ばかりではないかもしれないけれどそれでも良いのです」という言葉に救われる思いがしました。世界では心穏やかではないニュースが続いていますが、私達はキリスト者として、異なった環境に置かれている人達でも一緒になれるという希望を持って、音楽を続けていくことができればと思っております。



(松井 公子)

【今月の社会活動部の予定】

1月13日(土) 10:00 炊き出し 小野浜グラウンド

(神戸市小野浜町3 ポートライナー貿易センター前)

1月15日(月) 9:30 ともしび会 教会台所 (児童養護施設の子どもたちへのケーキ作り)

クリスマスチャリティーコンサート 4年ぶりに復活(神戸中央教会で)



気持ちよく晴れ渡った冬空の下、2023年12月2日(土)、カトリック神戸中央教会の主聖堂で4年ぶりにシナピス神戸主催のクリスマスチャリティーコンサートが開催されました。このコンサートは、阪神淡路大震災の時に住む家も食べるものもない野宿者の支援活動を始めたカトリック社会活動神戸センターを支えるためのチャリティーコンサートで、今回で15回目を迎えました。出演者は各教会から募ったボランティアの人たちでしたが、野宿者、生活困窮者に思いを馳せ、貧しい人に寄り添ったキリストに倣い心をこめて演奏して下さい、感動あふれるコンサートでした。六甲教会からはウクレレ奏者のシンガーソングライター Sakura Teresa 村田さんが初出演されました。住吉教会からは、教会学校の子どもたちが一生懸命にイエス様のお誕生をお祝いする歌を歌って下さり、また最後は恒例の神父様バンド。ギター、ドラム、電子ピアノ、ヴォーカルなど8人の神父さまが熱演され、Heal the World や、Happy Christmas を披露。最後に会場みなさんと「Believe」を歌い、閉会后、中庭でみんなと炊き出しの中華スープをいただき解散にいたりました。この日の来場者は238人で募金額は252,387円+20ドル。その日のうちに活動センター長、木谷さんにお渡ししました。毎年12月第1週の土曜日にあります。昨年見られなかった方は、今年の12月にお待ちしています。(社会活動部 井川 伸子)





イエスはお答えになった。「第一の掟は、これである。『イスラエルよ、聞け、わたしたちの神である主は、唯一の主である。心を尽くし、精神を尽くし、思いを尽くし、力を尽くして、あなたの神である主を愛しなさい。』第二の掟は、これである。『隣人を自分のように愛しなさい。』この二つにまさる掟はほかにない。」(マルコ 12 ; 29～31)

現在、ウクライナやガザ他、世界の各所で、毎日罪のない市民が戦争の被害にあっています。特に将来ある子供たちの犠牲は胸が痛みます。今こそこの聖書の言葉を聞き入れ、戦火にある人々に早く平安な生活が訪れることを祈るばかりです。

《シノドス第 16 回通常総会第 1 会期の終了と報告》

(編集部より)第 16 回世界代表司教会議(シノドス)のテーマは、「ともに歩む[＝シノドス的]教会のためー 交わり、参加、そして宣教」でした。去る 2022 年 2～3 月に、六甲教会でもシノドスのための意見聴取が あったことを覚えている皆さんも少なからずおられることと思います(当時の質問票 <https://osaka.catholic.jp/pdf/2021/211112.pdf>)。質問内容は、教会においてどれくらい「ともに歩む」ことができているかを振り 返し、今後の糸口を探るよう構成されていました。教会本来のあり方の実現を目指すものでした。 あの時の方々の皆さんのご意見の数々は、その後どうなったのでしょうか。聴取された意見は旧大阪教区シノ ドス担当チームを経て全国 16 教区からの意見として集約され、カトリック中央協議会により取りまとめら れ¹⁾、教皇庁シノドス事務局に 2022 年 8 月に提出されました。その後、各大陸/地域における教会協議会 などを経て 23 年 10 月、ローマでの代表司教会議(シノドス)への討議要綱²⁾としてまとめられました。

2023 年 11 月 23 日(木)、サクラ ファミリア(大阪市北区)で、『シノドスを受け止めて ～イエスに従い「ともに歩む教会」に向けて～』の集い(大阪教区新福音化委員会企画)が開かれ ました。ローマでの世界代表司教会議(シノドス)第 16 回通常総会(議長:フランシスコ教皇) で議長代理の一人を務めた西村桃子さん(セルヴィ・エヴァンジェリー宣教会宣教師)(写真)より 報告がありましたので簡単にご紹介します。



バチカンでの第 16 回シノドス(議長:フランシスコ教皇、会期:2023 年 10 月 4 ～29 日)の参加者は 380 人、代表司教以外も招聘され、日本からは 4 人(菊池功 大司教、シスター弘田鎮枝、オロリッシュ枢機卿、西村桃子各氏)が参加しました。

会議に向けて作成されたシノドスの討議要綱²⁾には、質問票により一般信徒か ら意見聴取され、とりまとめられた「準備文書」も引用文書として含まれています。 これに基づいて全体会議と分科会における連日の討議を経て、10 月 28 日(土) に総括文書を採択、29 日(日)の閉会ミサをもって終了しました。この総括文書作 成にあたっては、1 行ごとに適切であるかどうかを投票するという忍耐強い作業が行われました。会期は 4 つ にわけられ、それぞれのテーマ別に分かち合いが行われましたが、常にそれは「霊における会話」(討議要綱 18 頁)²⁾、「霊による導き」を大切に行われ、100%の傾聴が心がけられたと説明されました。午後には、バンコク での「アジア大陸ステージ・アジアシノドス」の様子が報告されました³⁾。最後の質疑応答時には聴衆から、「バチ カンにおけるシノドス的『わかちあい』は、ある程度訓練され選ばれた人々が集っているからうまくいったと思う。 しかし、そうではない、一般の信徒には、聖霊の導きを得るために指導をしてくれるような人(ファシリテーター) が必要だ」とする意見も聞かれました。シノドス第 2 会期は 2024 年 10 月に開催されます。

1) 第 16 回世界代表司教会議(シノドス)のための日本の教会の回答書: [Synodus16_jpn.pdf](https://synodus16.jpn.pdf) (catholic.jp)

2) 世界代表司教会議第 16 回通常総会討議要綱-第 1 会期(2023 年 10 月): synodos202310.pdf (catholic.jp)

3) アジア司教協議会連盟 シノダリティに関するアジア大陸総会最終文書(2023 年 3 月 16 日)

<https://www.cbci.catholic.jp/2023/04/20/26911/>

患者さんとともに歩む 命の贈り物 ～骨髄移植ドナー体験記～

佐藤 雅孝



2015年夏のある日、献血会場で骨髄バンクのドナー登録を勧められました。説明を聞き、2mLの採血を行ってドナー登録しました。骨髄移植を成功させるためには数百～数万分の一の確率でしか一致しないHLA型(白血球の型)を一致させる必要があります、骨髄移植を希望される患者さんの移植が実現するためには、一人でも多くの方のドナー登録が必要です。

2023年夏に、骨髄バンクから「患者さんとあなたのHLAが一致し、ドナー候補者になりました」との連絡がありました。私は「提供意思あり」と返信し、確認検査(血液検査)に進むことになりました。検査結果が出てすぐに私はドナーに選ばれました。HLAが一致し、ドナー候補者になるだけでも珍しいことなのに、本当に自分が選ばれるとは、驚きました。患者さんは顔も名前も知らない方ですが、かけがえのない大切な人になりました。それから当日までに精密検査などのために通院しました。また風邪をひいたり、事故にあったりしないよう、細心の注意を払って過ごしました。これから移植を受ける患者さんとともに歩んだ日々でした。

骨髄採取を翌日に控え、入院しました。手術前はとても緊張し、入院前日からあまり眠れませんでした。手術室ではスタッフの方が緊張をほぐして下さり、酸素マスクで息を吸いながら「少しずつ眠くなってきますよ」と言われた次の瞬間、「奥様来られていますよ。佐藤さん、わかりますか？」と声を掛けられ、目を覚ましました。気付けば3時間の手術は終わっていました。腰は痛み止めが効いていたためか、楽でした。その後は病室で3時間程度安静にしました。安静解除後(写真)は壁伝いにゆっくり歩くことが出来ました。私の骨髄液は空を旅して、夜には患者さんの元に届けられたでしょう。痛み止めが切れてからは腰が痛みましたが、徐々に治まり翌々日には退院、仕事にもすぐ復帰できました。

患者さんが助かる方法は骨髄移植しかなかったと思われます。生きることを強く希望し、壮絶な治療の先にある幸せな毎日を私に託しました。患者さんとそのご家族にとってはつらい日々の中に一筋の光が見え、その光に向かって歩む日々だったと思います。多少の痛みで患者さんが助かるなら—私は骨髄提供の意思を固めました。私は少しだけ勇気を出しました。それ以上に、妻をはじめとする家族、両親、職場、オルガン・音楽奉仕者の皆様のご理解や温かいお言葉に、私は支えられました。

今も患者さんのことを思います。「今まで生きてきてよかった。」と心から実感しました。それは言葉では言い表せないくらい満たされた気持ちです。今、腰の傷跡はほとんどわからなくなり、あのときの痛みを思い出すこともできません。でも、とても温かいもので満たされた心は、一生忘れることなく続くでしょう。

「1月度三日月会 新年親睦会」のお知らせ

1月17日(水)11時～14時まで「新年親睦会」を実施します。この日は「阪神淡路大震災」の記念の日で、最初に10時からの「阪神淡路大震災の祈念ミサ」に与り、その後イグナチオホールで震災時の教会の役割などを分かち合い、昼食をはさんで懇親会を始めます。

懇親会では、高山さん、村田さん(事務所担当)、鈴木さん等の独唱、コーラス部との合唱などで時間を過ごしたいと思います。ご参加の方は所定の申込み用紙に記入の上、1月7日(日)までに三日月会の箱(聖堂前)か事務所に提出してください。

神学生フオンさんの六甲ダイアリーより（４）

ベトナムのカトリック教会での新年の美しい伝統について紹介します。

元旦は、過去を振り返り、新しい年の目標や計画を立てる良い機会です。ベトナムの信者にとって、元旦は神様への感謝を表し、神様からの祝福を求め、聖書の言葉に従って善い行いを決意する機会でもあります。私たちは新年の美しい伝統を持っており、それらは人生に意味と美しさをもたらしてくれます。

新年の美しい伝統の一つは、大晦日の夜と元旦にミサに参加することです。そこで、皆が神様に感謝し、一年の恵みを求めます。ミサでは、皆で神様の言葉を聞き、祈り、賛美歌を歌い、聖体の秘跡を受けます。ミサの終わりの祝福を受ける前に、各人は聖所に行き、聖書の御言葉の一節を受け取ります（写真）。いただいた御言葉は神様からの祝福であり、私たちの家族はこれを1年間の命の源であると考え、聖書の内容に応じて日々の生活を整えます。ミサの後、この日は特別に全員が教会司祭の周りに集まり、教会の代表者が神父様に感謝の言葉を送ります。



もう一つの美しい伝統は、親族、友人、隣人を訪問し、新年の挨拶をすることです。互いに愛情、関心、共感を示すのです。各家族は全員が祖父母の家に集まり、揃って聖壇の前に立ち、亡くなった家族や先祖のために祈ります。その家の長男が目上の人たちに対してこの1年間、世話になったことへの感謝の言葉を述べます。そしてベトナムにもお年玉のようなしきたりがあります。次は、パーティーで一緒に座り、元旦の料理を楽しむことです。このようにして、人々は家から家へと訪問していきます。正月の1日目は父方の親戚を訪問し、2日目は母方の親戚を訪問し、3日目は隣人や友人を訪問します。新しい年が始まるたびに行われる伝統行事です。

上記の伝統は、ベトナムの人の精神に刻まれているものであると言えます。それは民族の伝統であると同時に、カトリック信者にも同様に大切にされています。カトリック教徒は新年の三日間教会に行って祈り、その後お互いを訪問するからです。良い伝統が将来も若い人たちに受け入れられ、引き継がれることを願っています。

Peter Hoang Cong Phuong, S. J.

アルバム●六甲教会のクリスマス風景



24日のゴミサのあと、中高生会有志が信徒の皆さんに温かいココアを振舞ってくれました。写真は厨房で準備中の様子。



聖なる夜のクリスマスツリー（左）と、厩のイエス様（右）

ミサの音楽の話 その1

今回から、教会音楽のお話を、基礎的なことから、少し専門的なものまで何度かにわたってお伝えしたいと思います。

いつもの主日のミサの中で、何曲の歌を歌っているか数えたことがありますか。

何気なく歌っていますが、毎回10曲も歌っています。その歌は二つのグループに分かれています。ミサで唱えられる式文は「通常文」と「固有文」に分かれます。その中の通常文に曲が付けられたものがミサ曲です。何気なくいつも「ミサ曲」と言っていますが、もともとはどういうものかをご存知でしょうか。

カトリック大辞典によると、【ローマ・カトリック教会のミサで歌われる聖歌のうち、通常式文を組曲風にまとめて作曲した音楽作品のこと。14世紀以後、主にポリフォニー（多声音楽）によって作曲され、聖歌隊によって歌われるのを常としたが、時には独唱曲として、またオルガン独奏による器楽曲として作曲された例もある。】と書かれています。

つまり、「ミサ曲」としてまとめられているものは「通常式文」、年間を通してずっと同じ言葉が使われる部分ということです。

日本では「ミサ曲」というと「いつくしみの賛歌（キリエ）」「栄光の賛歌（グロリア）」「感謝の賛歌（サンクトゥス）」「平和の賛歌（アニュス・デイ）」の4曲を思い浮かべる方が多いと思います。けれども、上記のカトリック大辞典に記載されている音楽作品としてのミサ曲には「信仰宣言（クレド）」も含まれています。私たちが考えている4つの通常式文に作曲されたものを「ミサ・ブレヴィス（小ミサ）」と言います。現在日本で使われている典礼聖歌集の中にも、「信仰宣言」に作曲されたものが含まれていますが、あまり歌われていません。

それに対して、「固有式文」でABC年で決められて歌われているものは「答唱詩編」「アレルヤ唱」のみになっています。グレゴリオ聖歌の時代では「入祭唱 Introitus」「奉献唱 Offertorium」「拝領唱 Commnio」も年間を通して作曲されていました。今では決められた曲がありませんので、音楽チーム内の聖歌選定委員会で、その日のミサの意向に合う曲を考えて選曲しています。（典礼部音楽チーム 三浦 優子）

◎社会活動神戸センターから

12月に防寒具、防寒用品の寄贈を募ったところ、皆さまからたくさんのご寄贈を頂きました。

カトリック社会活動神戸センター代表の木谷さんからお礼のメッセージが届きました。

このたびは、みなさまより暖かいお心遣いをいただき誠にありがとうございます。暖冬とはいえ夜間の寒さは身にしみるものがあり、12月も後半となると冷え込みも一段と厳しくなるとのことです。そのような中で、今シーズンも生命をつなぐ防寒用品をお届けくださったこと、感謝に堪えません。援助物資として大切に利用させていただきます。

カトリック社会活動神戸センター 代表 木谷 公士郎

◎落ち葉清掃のお礼

落ち葉の季節、教会内外の清掃をしていただきました皆さまに御礼申し上げます。すっかり葉を落としたイチョウたちですが、新たな芽吹きを楽しみにしたいと思います。（施設管理部）

（写真はきれいに掃き清められた教会西側、南側の道路）



Thank you !



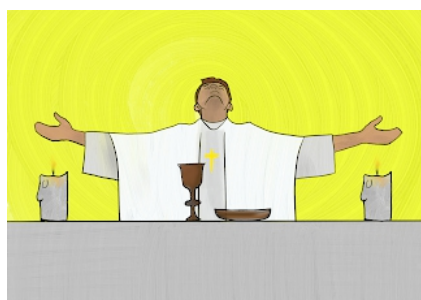
六甲春秋 一年の計

年の瀬を忙しく過ごされ、家族そろって家事に追われたこともあったでしょうか。教会のほうは、クリスマスがすぎるとゆっくりとした休み気分で、お蔭様のんびり過ごしています。一月の行事予定表はけっこう盛り沢山のようです。ある方は、旅行の計画を立てているかもしれませんね。とにかく過ぎ去った一年を思いめぐらし、また新たな一年を迎える重要な時期、心新たに祝いたいものです。今年はどうな年にするつもりか、大いに門出の抱負を巡らせましょう。その一助として、昨年の三大ニュースは何でしたか。新聞・報道による第三者機関のものではなく、私に関わる嬉しい・苦しい出来事がありましたか。

私にとって大きな喜びの源となった一つの出会いがあります。彼とは久しぶりに会い話し合ったのですが、なかなかこなれた人柄で驚きました。この人に委ねて歩みゆけば何の心配もないと納得しました。

また老いの重さや昏さを案じます。外面はどうであれ、日ましに出来る事が減っていく現実には圧倒されながらも、それでも不思議なことに「鶏口となるも牛後となるなかれ」と、怯む心を煽る気概も変わりません。人間はなかなか複雑な存在ですね。

去年はあまり起伏のない平らな毎日、お



かげでパソコンによってドラマや映画や戦記物をよく見ました。以前に見たはずの物でもすっかり筋を忘れているために、興味深く大いに楽しみました。それにつけても記憶の減退の速さに驚きいりました。

しかしながら私たちの中には、住み慣れた親元を離れ結婚を決めた人、高校から遠隔の地にある大学に進む人、赤ちゃんを産もうと決めた人、就職を機に大都会で一人暮らしをする人などなど、今までの生活を一新して苦勞を覚悟で進みゆく人々がいます。若者の特権というべきでしょうか。彼らは前進するばかり、逃げないで出かけるばかり。心からの声援を送りましょう。

聖書の言葉を贈ります。イエスが日増しに成長されたのであれば、イエスを信じる私たちキリスト者も「ますます知恵が加わり、背丈も伸び、神と人から愛された」の御言葉が成就しますように。お年寄りにとっては身体の機能が日ましに衰え利かなくなること、周りの人たちの厄介や世話になること、それこそが何よりの成長です。若者にとっては新たなこと・未知なことに挑戦しやってみることこそたくましい成長です。一年の計は元旦にあり。相ともに決意を固め、ともに前向きに進み行こうではありませんか。

元旦は神の母聖マリアのミサを祝います。その集会祈願を書き加えましょう。

『いのちの源である神よ、あなたは乙女マリアをイエスの母として選び、救い主を人類に与えてくださいました。聖母マリアを通して御子イエスを迎える私達に救いの喜びを味わわせてください。』

中村健三 合掌

カトリック教会は、毎月、「教皇の祈りの意向」を示し、教会全体が日々の祈りの中で、その意向に基づいて祈るように招いています。1月の祈りの意向は、「多様性という賜物」です。次のように祈りましょう。
「キリスト者の共同体には賜物として多様なカリスマがあること、また、カトリック教会には多様な儀式的伝統があることを、聖霊の導きによって気づくことができますように。」

【2024 年 1 月行事予定表】

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
	神の母聖マ リアミサ 7:30 10:00 教会事務室 休み(～3日)				初金曜日ミサ 7:00 10:00 聖体顕示 10:00 ミサ後 ◎灘北1, 北・ 三田	聖堂内外のク リスマスツリ ーの片付け 13:00
7	8	9	10	11	12	13
主の公現 手話付きミサ 10:00 (ミサ中新 成人の祝福) 新年会 10:00 ミサ後。新年会 後、祭壇前幼子と馬 小屋の片付け	主の洗礼				◎灘北2・阪神	社会活動部 炊き出し 教会学校始業 式ともちつき
14	15	16	17	18	19	20
年間第2主日 小教区評議会 11:30			阪神淡路大震災 追悼祈念の日ミ サ 7:00 10:00 三日月会新年親睦 会 11:00～		◎灘南・ 神戸西	◎土曜班
21	22	23	24	25	26	27
年間第3主日 神のことばの主日	◎定期清掃			聖パウロの 回心		
28	29	30	31			
年間第4主日 世界こども助け 合いの日(献金) 典礼部会 13:00						

◎は掃除当番地区です。(午前7時時点で気象警報が発令された場合は中止します)

【編集後記】 おめでたいばかりではない新年となりました。自然災害に大きな航空機事故。コロナがいつまでもパンデミックになっても不思議はありません。世界中が政治・経済でつながる今、戦争は他所事だと素知らぬ顔もできない。こうした時代に、助けを求める人の声なき声をいつも聞き取れるようにしたいと思います。

能登半島地震への義援金箱が設置されます。みなさまのご協力をお願い致します。(N.O.)

・次回1月号の発行は1月27日(土)です。 原稿は毎月15日ごろまでに、教会受付へ直接 ご持参いただくか、FAX、メールでお願い致し ます。(renraku@rokko-catholic.jp) 皆さまからのご寄稿をお待ちしています。 教会SNSチームは、フェイスブック、インスタグラ ム、X(旧ツイッター)、YouTubeチャンネルで配 信しています。「六甲カトリック教会」で検索してみ てください。	六甲カトリック教会 〒657-0061 神戸市灘区赤松町 3-1-21 電話 078-851-2846 FAX 078-851-9023 http://www.rokko-catholic.jp 発行責任者 英 隆一朗 編 集 広 報 部
---	---